

今年度の賓陽塾を振り返って

浅海環境部 研究管理員 吉田 秀雄

海洋学院の漁業後継者育成事業の一部を引き継いで、昨年度から増養殖研究所でスタートした「賓陽塾」は早いもので2年目を迎え、通常研修、選択研修とも無事終了しました。

今年度の受講生は

今年度の通常研修は、毎日受講する研修生15名、希望科目のみを受講する聴講生15名の計30名でスタートしました。

話題は、なんとといっても15歳と16歳の中卒者2名が研修に参加し、午前9時から午後4時まで1日を通して毎日受講したことです。他の研修生は昨年度と同様、午前中にホタテガイ養殖作業を行い、午後から研修に参加する形になりました。

研修生の出身地及び人数は、地元平内町が最も多く13名（土屋1名、茂浦1名、浦田6名、東田沢1名、小湊3名、清水川1名）、野辺地町及び深浦町が各1名でした。聴講生の出身地及び人数は、土屋10名、茂浦5名（両地区とも漁業研究会有志）でした。

通常研修

研修は概ね、月曜日から木曜日までは講義と実習（実習のみの日もあり）をそれぞれ午前と午後に行い、金曜日は1日を通して水産施設の見学または漁業実習を行いました。

1 講義の状況

講義内容を表1に示しました。

午前は、主に中卒者2名を対象とし、賓陽塾を担当

している職員が交代で講師となり、漁業や海、船舶に関する基礎的なことについて講義を行いました。

午後の講義は、研究所職員、県の行政担当職員、漁



青森県漁業武士会山下会長の講義



ホタテガイの解剖

業士会役員、海上保安部職員が講師となり、資源管理、漁業制度、水産試験研究に関するものでした。今年新たに加えられた内容として、先輩漁業者である山下県漁業士会長からの漁業士会活動や毎日の操業に関する具体的な生々しい話があり、聞き入っていました。また、ホタテガイや魚の解剖の講義では、それぞれの部位の名称の確認や年齢の査定時に使用する耳石の取り出しに挑戦し、悪戦苦闘？しながらも学んでいる姿は印象的でした。

2 実習の状況

実習内容を表2に示しました。

午前は、籠やさし網漁業についての結びや縄捌き、漁具整理などのほか、午後から始まる実習の予習を行いました。

午後は、ロープワーク、籠やさし網漁業などの実習を行ったほか、漁具製作や水中テレビによる観察を行いました。なかでも水中テレビに垂下されたホタテガイの養殖施設が映った時には、その映像に釘付けになり、自分の施設と比較して感想を述べたり批評をし、生産者としての姿を垣間見ることができました。また、施設直下の海底の状況には深い関心を示していました。



漁業実習海域までの操船訓練

3 水産施設見学の状況

水産施設の見学先を表3に示しました。

見学先は、ヒラメやアワビの種苗生産、ヒラメ中間育成、ヒラメ養殖に関する施設のほか、産地直売所や荷捌所、ホタテ加工施設や水産物加工研究機関でした。なかでも三厩村漁協に水揚げされていた100Kgを超えるクロマグロはなかなか見ることが出来ないものであり、貴重な体験となりました。



三厩村漁協に水揚げされたクロマグロ

4 修了式

通常研修は、研修生15名でスタートしましたが、通常研修の修了要件である開講日数の半数以上の出席をクリアしたのは、8名でした。

修了式では、平野所長から各自に直接修了証書が手渡され、その後、これからの漁業活動に対し励ましの挨拶がありました。限られた時間をやりくりしながら研修に参加し、修了証書を手にできたことには感慨深いものがあったと思います。

また、全日程に出席した研修生2名には平野所長から皆勤賞と記念品が贈られました。

今年は通常研修の修了記念として飾り結びの結索標本を各自で製作（平野所長も賓陽塾長として参加し研修生を指導しながら製作しました）し、修了証書とともに持ち帰りました。



修了生と記念製作した結索標本

選択研修

二級小型船舶操縦士の免許取得のための講習を8月27日～30日（学科2日、実技1日）に開催しました。学科講習を当研究所研修棟で、実技講習を茂浦地先で行い、研修生6名を含む8名が受講し、全員が免許を取得しました。

第三級海上特殊無線技士の講習と漁業者宅へのホームステイによる定置網漁業実習や県試験船によるイカ釣り漁業実習については希望者がいないため実施しませんでした。



小型船舶実技講習

おわりに

今年も関係者の皆様の協力を得て研修を終了することが出来ました。修了式の前に行われた座談会では、多くの研修生から「賓陽塾の研修内容は役立つものが多く、また、他地区の同年代の同業者を知る良い機会になった。」との意見がありました。

今年は通常研修が行われている7月3日に、平内町漁協浦田研究会と東田沢研究会（計15名）が午後の賓陽塾に参加し研修生とともに研修を受けました。このように研究会の研修の場としての賓陽塾の活用もありますので、興味のある研究会は、お気軽にお問い合わせ願います。

現在、来年度の受講生募集を進めておりますが、「賓陽塾」はスタートして間もないことから、漁業者にまだ十分周知がされていない状況にあります。このため皆様のご協力が必要となっております。漁業後継者や漁業に就業して間もない人がいらっしゃいましたら、研究所または普及指導員までご連絡頂ければ説明に伺いますのでよろしくお願います。

表1 講義内容

午前		午後		
月日	内容	内容	講師	
5月15日	方位	増養殖研究所の概要	増養殖研究所	尾坂研究調整監
5月19日	コンパスカードの読み方	陸奥湾海況自動観測システム	増養殖研究所	兜森研究管理員
5月20日	天気図からみた今日の天気の変化	ホタテガイの貝毒	増養殖研究所	高坂主任研究員
5月21日	漁業の違いによる漁船の型	海洋観測	増養殖研究所	小泉技師
5月22日	船体各部の名称（和船）、方位、天気図			
5月26日	方位、風向、流向、船体各部名称	ホタテの体を知って養殖をしよう	増養殖研究所	工藤はたて 貝部長
5月27日	漁業管理の概要	青森県は水産資源の宝庫	増養殖研究所	尾坂研究調整監
5月28日	船のトン数の表し方	栽培漁業	増養殖研究所	吉田魚類部長
5月29日	イカ釣り漁船・漁法の概要	陸奥湾の海況	増養殖研究所	兜森研究管理員
6月2日	操船①			
6月3日	まき網漁船・漁法の概要	水産物の流通	増養殖研究所	廣田技師
6月4日	漁業の仕組み	魚の体	増養殖研究所	上原子浅海環境部長
6月9日		漁港漁場の整備	漁港漁場整備課	吉崎技師
6月10日	漁船の登録番号	資源管理	水産振興課	田中技師
6月11日	操船②	ロープ類の知識①	増養殖研究所	吉田研究管理員
6月16日	操船③	磯根資源の増殖	増養殖研究所	桐原部長
6月17日		漁業士会の活動等	青森県漁業士会	山下会長
6月18日	船が浮かぶ理由・沈む理由	決め手は青森県産	総合販売戦略課	涌坪主幹
6月19日		ホタテラーバ調査等	増養殖研究所	山内主任研究員ほか
6月23日	船のバランス	漁業制度の概要	水産振興課	高林漁業管理GL
6月24日		担い手育成	水産振興課	三戸企画・普及GL
6月25日		これからの漁業について考えよう	水産総合研究センター	金田一資源開発部長
6月26日		漁協の現状と問題点	水産振興課	小中水産経営GL
6月30日	第58寿和丸の転覆事故	ヒラメ・ミズダコ・キアノコウなどの生態と資源管理	水産総合研究センター	野呂漁場環境部長
7月2日		航海計器（コンパス）	増養殖研究所	小笠原技師
7月3日		大型クラゲによる漁業被害と対策	増養殖研究所	尾坂研究調整監
7月7日	離岸・着岸	青森県海面漁業調整規則	増養殖研究所	上原子浅海環境部長
7月8日		むつ湾におけるホタテガイ養殖付着物	増養殖研究所	吉田主任研究員
7月9日	職業としての漁業①	ロープ類の知識②	増養殖研究所	吉田研究管理員
7月14日	行会い・横切り船の航法	地域資源の利用と加工	ふるさと食品研究センター	永峰次長
7月15日		ホタテガイ漁業	水産振興課	伊藤主査
7月16日	職業としての漁業②	栽培漁業	水産振興課	奈良主幹
7月17日		天気図の見方	増養殖研究所	吉田研究管理員
7月22日	小型船舶の運航	海図・GPS	増養殖研究所	小笠原技師
7月24日	職業としての漁業③			
7月31日		海難事故の防止	青森海上保安部	

表2 実習内容

期 間	ロープ類	漁 業	船舶運航・その他
5月15日～5月30日	基本的な結び方 石からめ 三撚りロープさつま加工	籠・さし網	操船 航海計器
6月2日～6月30日	三撚りロープさつま加工 クロスロープさつま加工 サザンクロスロープさつま加工	籠・さし網 一本釣り アイナメ籠	操船 航海計器
7月1日～7月30日	クロスロープさつま加工 網補修 ワイヤーロープさつま加工 結索標本	一本釣り	水中カメラによる観察 船体整備

表3 水産施設見学先

月 日	見 学 先
5月16日	八食センター、八戸漁業用海岸局、青森県栽培漁業振興協会
5月30日	青森市水産指導センター、ほたて広場、青森県漁連平内加工場
6月13日	青森県漁業士会むつ支部三の市、下北ブランド研究開発センター
6月27日	水産総合研究センター試験船「青鵬丸」、青森県栽培漁業振興協会日本海事業所、鱒ヶ沢町アユ・イトウ養殖施設
7月18日	竜飛ひらめ養殖生産組合、三厩村漁協荷捌き所、竜飛今別漁協直売センター